

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク

Vol.
4

振興協議会だより

〔発行日〕平成26年2月24日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進準備室

糸魚川ジオパーク視察

1月31日、上村会長、島田副会長、桑原津南町教育長、佐藤準備室長が糸魚川ジオパークへ視察に行ってきました。

糸魚川ジオパークは、世界ジオパークと日本ジオパークに登録されている地域で、日本ジオパークネットワーク設立当初からのメンバーです。日本において最初に世界ジオパークに認定され、日本ジオパークネットワークの事務局も担っており、会長は、米田糸魚川市長が勤めています。

糸魚川ジオパークは ヒスイの産地であり、日本を東西に分ける大きな溝「フォッサマグナ」の西側の断層「糸魚川―静岡構造線（糸静線）」が通る地域です。24のジオサイト（見どころ）があり、美山公園内にあるフォッサマグナミュージアムがジオパーク情報センターになっています。

今回は、糸魚川市長を訪問してお話をうかがい会食の後、フォッサマグナミュージアムで専門員の竹内さんに説明をしていただきました。

糸魚川ジオパークは、長年、地質を中心とした博物館構想や地域づくり構想を続けていました。特に、地域の商店との連携は、ジオパークを活用した新たな取り組みを地域づくりに位置づけて実施しています。北陸新幹線の開通を見据えて、現在もなお、新たな取り組みを計画しているそうです。

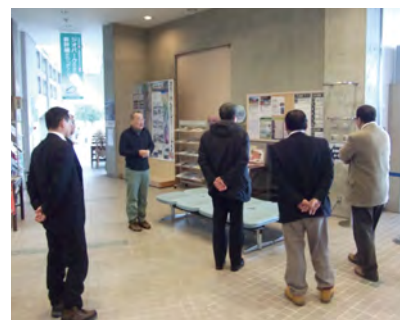
苗場山麓ジオパークが認定されると、新潟県内で3番目のジオパークとなります。糸魚川ジオパークでは、佐渡ジオパークを合わせて、新潟県で国際ジオパーク大会を誘致・開催を計画しています。この大会の中には、県内のジオパークを巡るツアーも予定されています。苗場山麓ジオパークにも、世界中のお客様が来られる可能性があります。



糸魚川市長との懇談



フォッサマグナミュージアムにて



フォッサマグナミュージアムにて



フォッサマグナミュージアム 展示の様子



フォッサマグナミュージアム 展示の様子



ジオに関連した商品



栄村秋山郷観光協会のジオパーク勉強会

2月18日、栄村秋山郷観光協会の会合でジオパークの勉強会をさせていただきました。参加者の皆さんから、鈴木牧之が描いた鳥甲山は、中津川側から見たものではなく、反対側に絵のような地形がある。反対側へ行くのは容易ではないが、雑木の茂らない時期に行ってみよう。硫黄川に生育していた希少な植物が洪水等で流され上流部にしか残っていないなど貴重なお話を聞くことができました。



2回目の商品開発部会が開催されました

2月7日、振興協議会の商品開発部会の2回目の打ち合わせが開催されました。

この中で、地域の商店、旅館、飲食店から、苗場山麓ジオパークをテーマにした食べ物や商品を開発してもらうには、どうすれば良いかという議論が行われました。

その結果、地域の商店向けのジオパーク説明会を開催し、ジオパークについて知ってもらいそれをヒントに商品開発を試みってもらう提案をお願いすることになりました。

3月19日(水) 14:00～、飲食店、商店、旅館などを対象に、ジオパーク説明会を開催致します。

苗場山麓ジオパーク構想を紹介する展示をしています！

「ジオパークって何?」、「どんなところがあるの?」そんな疑問にお答えする展示を津南町農と縄文の体験実習館の地域ギャラリーと津南町役場1Fエントランスにて展開しています。どうぞ、お立ち寄りの際は、ご覧下さい。

今後、公共施設やお客様が多く訪れる場所にも展開していきたいと考えております。

苗場山麓ジオパーク構想や協議会の活動を津南町・栄村内で発信します。

住民の皆様にもっと苗場山麓ジオパークについて知っていただくために、めざせ！苗場山麓ジオパークの「振興協議会だより」とパンフレットを苗場山麓ジオパーク構想エリアの各所に配布・配置を行う予定です。今後病院や待ち時間のある店舗などに、随時お願いしていきます。

COLUMN

大地の息吹と
現代を結ぶ

火山活動～湧水・縄文～

80万年前に鳥甲山が噴火しました。そして、40万年前には、苗場山が噴火しています。

苗場山の溶岩は、中津川を越えて赤沢台地まで流れて来ています。この溶岩の縁からは、清水川原をはじめ、涌井の池など標高約450m附近に湧水点が点在しています。この湧水は、妙法牧場や高野山牧場などに降った雪や雨が大地にしみ込み、苗場山の溶岩の層を通して湧き出しています。

その1つが龍ヶ窪です。龍ヶ窪では、およそ40年かけて、大地にしみ込んだ水が湧きだしていることが分かっています。毎日43,000tの水が湧きだし、入れ替わります。龍ヶ窪は自然保護区や名水100選になっています。

龍ヶ窪のそばには、立石遺跡があり、今から6000年前の竪穴住居が発見され、この水が縄文時代から利用されていたと考えられます。

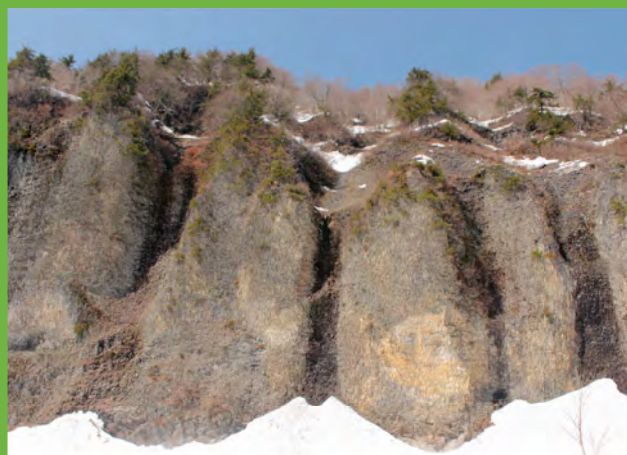
写真：出土した住居跡（上）と立石遺跡全景（下）



めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

結 束 の シ シ 穴



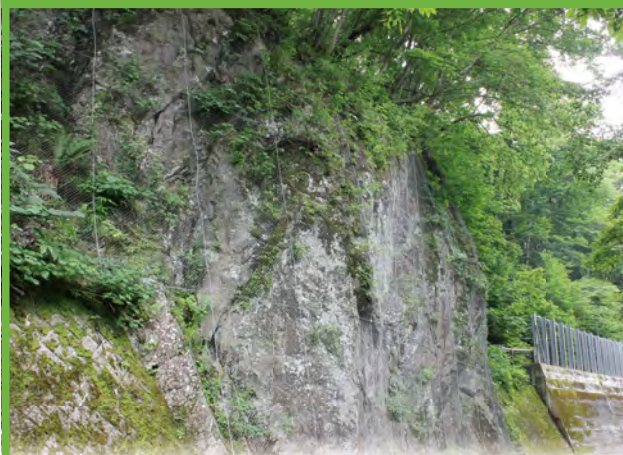
所在地 津南町結束 **種 別** 地質

結束の「ししあな」と呼ばれる、萌木の里の裏側に見ることができる柱状節理は、およそ 77 万年前に噴火した鳥甲山の溶岩と考えられています。前倉溶岩とも呼ばれる火山碎屑物です。柱状節理が発達した安山岩の溶岩は、布岩山の東から穴藤まで北へおよそ 20km 以上も流れ、先端は魚沼層群上部に見ることができます。

遠くから見ると、一枚の平滑な浸食面として見える崖ですが、近寄るとロウソク状に浸食されている様子が観察できます。この浸食は雪どけによって形成されたと考えられています。

「しし」とは「アオジシ（カモシカ）」のことで、カモシカのねぐらがあることから、ついた地名と思われる。

上ノ原の風穴



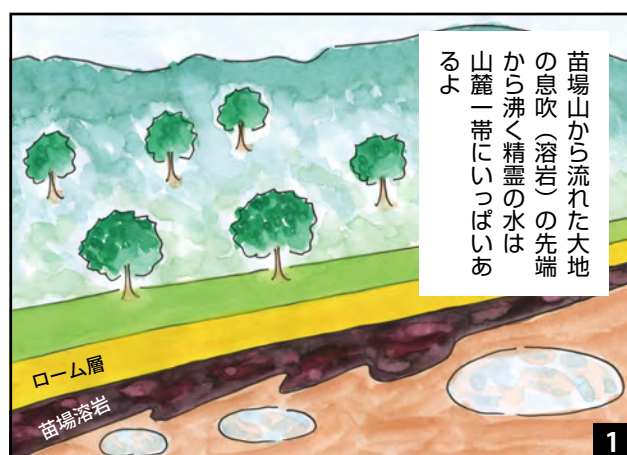
所在地 栄村上ノ原 **種 別** 地質

国道 117 号線沿い、上ノ原集落への登り口少し手前の岩壁の隙間から冷たい風が吹き出る場所があります。これが「上ノ原の風穴」です。この岩壁は、エラクボ平火山岩でできていると考えられています。

エラクボ平火山岩とは、今からおよそ 500 万年前の新第三紀後期、西田尻層と呼ばれる海底火山の活動期に、隆起して浅い海や陸地になったところで火山が噴出したものです。

吹き出す空気の温度は、夏場でも 10 度程度のことが多く、外気温との温度差により、その周辺のみ霧が発生することもあります。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



今後のスケジュール

平成 26 年 2 月 24 日	なじょもん塾 第 2 回	
2 月 25 日	住民説明会 (下船渡地区)	会場: なじょもん
2 月 26 日	振興協議会・学術検討委員会合同会議および懇親会	
2 月 27 日	住民説明会 (津南原地区)	会場: 米原公民館
3 月 4 日	住民説明会 (外丸地区)	会場: 外丸公民館
3 月 5 日	ジオパークガイド養成講座 第 4 回	
3 月 6 日	住民説明会 (三箇地区)	会場: 辰ノ口公民館
3 月 11 日	住民説明会 (上段地区)	会場: 赤沢公民館
3 月 13 日	住民説明会 (三里地区)	会場: 上野公民館
3 月 18 日	住民説明会 (寺石地区)	会場: 寺石公民館
3 月 19 日	ジオパーク説明会 (飲食店、商店、旅館向け)	
3 月 19 日	ジオパークガイド養成講座 第 5 回	
3 月 20 日	住民説明会 (大井平地区)	会場: 大井平公民館
3 月 25 日	住民説明会 (宮野原地区)	会場: 宮野原公民館

PICK UP!

振興協議会・学術委員会合同会議

2 月 26 日に行われる振興協議会と学術委員会の合同会議では、町田洋先生をお迎えし講演していただきます。町田先生は、日本におけるテフラ（火山灰）研究の第一人者であり、その成果と功績は海外においても高く評価されています。2008 年から日本ジオパーク委員会の副委員長として、ジオパークの普及・啓発にご尽力されています。